

# 第4回【赤坂通りまちづくり：街づくりビジョン説明会/旧日大三高通で具体的デザインを考えるワークショップ】結果

■日時：10月22日（土）14時～17時 ■場所：赤坂消防署新町出張所会議室（参加者：23人）

## ■スケジュール

14:00 開会挨拶（小山） 14:10 まちづくりビジョンの説明（寺腰） 14:20～14:40 全体説明と先進事例の紹介（連）  
 14:40～15:10 まち歩き 15:10～16:10 提案を考える 16:10～16:40 グループ発表  
 16:40～16:55 まとめと今後の展開（港区まちづくり担当：小門課長・連・寺腰） 16:55～17:00 閉会挨拶（持田）

## ■講演「先進事例からヒントを得る」 講演者：連健夫（港区まちづくりコンサルタント、連健夫建築研究室 主宰）

**【英国の事例】**「歩道を安全に歩くことができる」、「バリアフリーである」、「花や植栽で街並を美しくする」、「コモンスペース（共有地）などの広場がある」、「古き良きものは継承する」といったヒントがありました。

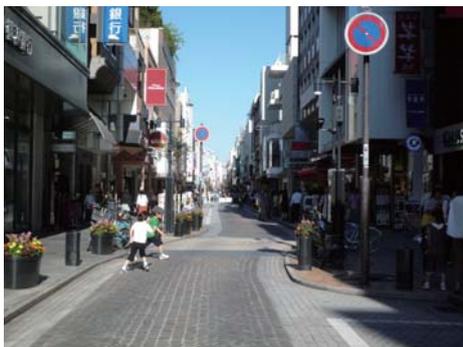
**【横浜市元町の事例】** 市民と行政が協力して質の高い地区計画を作り、成熟した街を創ってきたこと、壁面後退による歩行者空間の拡幅による容積率や道路斜線の緩和といった誘導的手法等、先進的ルールを作ってきた街です。一方通行にした車道の屈曲、スピードを出させない舗装、ストリートファニチャー、広告、看板のデザインルールを作り統一したデザインがなされています。

**【川崎市溝の口の大山街道の事例】** 都市化の中で、大山街道の良さが無くなっていく危機意識の中で生まれた地区計画。古き良き財産を街づくりに活かすべく都市景観形成地区として位置づけ、「心地よいまちづくりの8つの作法」として、テーマのある建物の色彩デザインや緑化の設え、暖かみのある照明計画、魅力的な看板や装飾の活用などのデザインルールを設けた事例です。

重要なポイントとして、地区計画が出来た事により、建築計画には最初に事前協議が必要となり、役所において地区計画との整合性のチェックがなされ、併せて地元まちづくり組織との協議が必要となることです。事業者は役所へ地区計画の届出が必要で、適宜に確認申請（民間審査機関）は受付できません。赤坂通りまちづくりでも今後のプロセスにより、将来地区計画をつくるのが可能です。



英国のコモンスペース



横浜市元町



溝口大山街道地区計画

## ■まち歩き

旧日大三高通りを歩きながら、通りの改善点を探しました。歩道にはみ出した看板や、落書きのある仮囲い等景観上の問題点や、ガードフェンスで仕切られ、段差のある歩道等の改善点が見つかりました。



## ■提案のまとめ

### 道路

- ・道路に名前を付ける→案をいくつか出し、投票イベントを行う
- ・パイプフェンスをやめてポラード（車止め）にする
- ・アスファルト舗装を止めてピンコロ石やカラー舗装にする
- ・一方通行にして両側に歩道を設ける
- ・一定時間通行止めにして歩行者天国にする ・屈曲を付ける

### 看板広告

- ・看板の大きさ、色、位置をルール化する

### 照明

- ・街路灯をデザインする→灯籠などをモチーフにする

### 歴史性・和の雰囲気づくり

- ・竹林を活かす ・料亭や勝海舟など歴史を意識した雰囲気づくり

## ■具体的デザインを考えるワークショップ

4グループに分かれ、ポストイットに提案を書き、地図の周りに貼り付けながら議論を行いました。出された提案に対して優先順位をつけ、各グループの発表を行いました。



### 電信柱

- ・地中化する、それまでは電柱看板を外して、こげ茶に塗装する

### 自動販売機

- ・地味な色にする→色彩と大きさ、位置をルール化する

### 空家や空地

- ・地域で借りて、カフェなどとして運用する

### 潤い・癒しの工夫

- ・植栽ポットを設けて花を植える ・ベンチを設ける
- ・緑を設ける事を制度化する

### 直交する私道とのつながり

- ・シンボルゲートをつくる ・ベンチなどの休憩空間をつくる

### 新規参入事業者への働きかけ

- ・まちづくりビジョンの主旨を共有する
- ・共に街を良くするための歩み寄り、提案を考える



Aグループ（利根川、阿部、渡邊、寺腰（富））



Bグループ（持田、小山、崎谷、廣野、栗原）



Cグループ（唐沢、井原、持田、大森、小川）



Dグループ（田中、山下、山崎、寺腰、武井）